

樹恩総会 2日目 「JUON ツアー2 青葉山コース」のご案内

<はじめに>ようこそ、杜の都仙台へ、さらによろこそ青葉山へ

旧伊達藩・青葉城があった青葉山丘陵一帯は東北大学や宮城教育大学のキャンパスとして有効に保存されてきています。当日は青葉山のでっぺん「地下鉄動物公園駅＝地下鉄では日本一の標高＝海が見える」から青葉山丘陵をくだります。途中、東北大学新キャンパスの農学部研究棟群、さらに、広大な東北大学工学部キャンパスを散策します。

更に大学の食堂でランチを食べて鋭気を養います。昼食後は原生林が生い茂る東北大学植物園内を植物園のガイド説明を受けながら説明していただきます。

当日は全行程を東北大学や八木山町内会有志の方に御案内していただく予定です。

<地形・歴史・文化から学ぶこと・体験して欲しいこと>

青葉山は、特定の山ではなく、[仙台平野](#)の西を縁取る丘陵群の一つである。最高点は青葉台団地付近の標高 202m。青葉山には[仙台城本丸・西の丸](#)、[東北大学植物園](#)、[東北大学青葉山キャンパス](#)（[理学部](#)・[薬学部](#)・[工学部](#)）、[宮城教育大学](#)、青葉山[市有林遊歩道](#)がある。

[仙台市地下鉄東西線](#)が 2015 年 12 月に完成。[リニアモーター](#)が採用されている。この路線は沿岸部の工業地帯から中心市街地、青葉城下を通過した後、青葉山丘陵の大学群をぐるりと一巡するコースになる。青葉山付近では地下での登坂、下記の溪谷を渡る際に、青葉山地下から断崖の溪谷橋を渡って再び八木山の地下に戻るなど、

青葉山丘陵は、西には[蕃山丘陵](#)に続き、それを介して遥かに[奥羽山脈](#)に連なる。北に伸びる[尾根](#)は東流する[広瀬川](#)に迫って断崖をなす。南では竜の口沢が[八木山](#)との間に深い溪谷を刻む。広瀬川は緩く湾曲して青葉山の南東で竜の口沢をあわせる。青葉山と広瀬川によって囲まれた段丘部を[川内](#)という。

[仙台市街地](#)に最も近い山であり、[仙台城](#)（青葉城）のほか、[東北大学青葉山キャンパス](#)（理・工・薬学部）[宮城教育大学](#)、[森林](#)が大半を占める。大学の近くであるため住宅需要は高いものの、アパート・戸建住宅は青葉台地区を除きほとんど無い。仙台城と[仙台市博物館](#)周辺は[青葉山公園](#)として整備され、市民に親しまれている。[東北大学植物園](#)の園内に広がる[原生林](#)（[潜在自然植生](#)）は、[天然記念物「青葉山」](#)に指定されている。

[青葉山](#)（あおばやま）の呼称の由来は[慶長](#) 7 年（[1602 年](#)）に福島信夫郡[信夫山](#)（当時は青葉山）から仙台城本丸の[竜の口沢](#)対岸に移された青葉山（せいようざん）寂光寺であり、名称は [1645 年](#)の仙台城絵図に初めて現れ、やがて周辺地域一帯も青葉山と呼ばれるようになった^[1]。

青葉山の南東端は、南と東に断崖を持つ要害で、中世に虚空蔵城が、[戦国時代](#)に千代城が、[1601年](#)からは[仙台城](#)が築かれた。そのため、江戸時代に青葉山の森林は城の後背地として保全された。明治時代から第2次世界大戦まで、川内に置かれた陸軍の[第2師団](#)の演習地として用いられ、戦時中は軍の食糧自給のため一部が農場になった。

戦後はその跡に[引揚者](#)のための[戦後開拓](#)が実施された。1945年の23戸から、1965年までに55戸が入植した[\[2\]](#)。開拓地は東北大学の移転によってなくなった[\[3\]](#)。